

〈教育・支援〉を再考するワークショップ

## 性教育をめぐる哲学的対話

講義 & 講師陣によるダイアログ アーカイブ動画配信  
(申し込みから1ヶ月間、繰り返し視聴可)

- 講義1 「正しい知識・正しい理解」をめぐる哲学的問い（60分）  
 講義2 セクシュアル・プレジャーと性の権利（50分）  
 講義3 グッドライフにつながる関係性・性的同意ーポジティブ・アプローチからー（60分）  
 講義4 教育・支援の現場で起こること（85分）  
 みんなでダイアログ（22分）

有料 6,000円



## アーカイブ動画の視聴方法

1. 視聴は有料（6,000円）です。
2. ①お名前、②ご所属、③連絡先（メールアドレス）を事務局・吉田（kansaisy@gmail.com）までお送りください。
3. 銀行口座情報をお送りします。入金確認できしだい、配布資料と動画視聴用のURLをお送りします。

## 講師紹介

藤岡 淳子 / Junko FUJIOKA, PhD 大阪大学大学院・教授（専門：司法犯罪心理学）。少年鑑別所、少年院、刑務所で20年間、非行少年・受刑者の査定と教育に携わった後、2002年から現職。専門は、非行・犯罪心理臨床。現在は、児童相談所、児童自立支援施設、刑務所などで、非行や犯罪行動のある少年と成人の教育プログラムの実施およびスーパーバイズを行うほか、一般社団法人もふもふネット代表理事として、コミュニティにおける性暴力への介入実践を行っている。著作は、「性暴力の理解と治療教育」（誠信書房）、「アディクションと加害者臨床」「治療共同体実践ガイド」（いずれも金剛出版）、「司法・犯罪心理学（近刊：有斐閣）など多数。講義3の主担。

東優子 / Yuko HIGASHI, MSW, PhD 大阪府立大学大学院・教授（専門：性科学・ジェンダー研究）。フルブライト奨学生として留学したハワイ大学大学院でソーシャルワークを専攻すると同時に、性と社会太平洋研究所（PCSS）でミルトン・ダイヤモンド博士に師事し、性科学を学ぶ。WAS（旧・世界性科学学会）役員。日本性教育協会（JASE）運営委員。SEE共同代表。講義1・講義2の主担。

野坂祐子 / Sachiko NOSAKA, PhD 大阪大学大学院・准教授（専門：発達臨床心理学）。臨床心理士。トラウマインフォームドケアの観点から、性暴力への介入や研究を行う。日本性教育協会（JASE）運営委員。特定非営利活動法人ぷれいす東京・スタッフ。一般社団法人もふもふネット・スタッフ。SEE共同代表。講義4の主担。

吉田博美 / Hiromi YOSHIDA, PhD 駒澤大学学生相談室・常勤カウンセラー（専門：臨床心理学）。臨床心理士。武蔵野大学心理臨床センター客員研究員。性暴力・性虐待被害者の心理療法を行う。米国ペンシルベニア大学不安障害治療研究センター認定 Prolonged Exposure Therapyスーパーバイザー／セラピスト。SEE事務局長。講義4の主担。

## オススメpoint ワークショップ参加者の声

- ♥（講義1について）「知識とは」をはじめ、「教育とは」、「正しいとは」、「人権」と、セクシュアリティという枠を超え、あらゆる領域に通じ今後の指針となる言葉の数々に触れ、またCSEについても知ることができ非常に有意義でした。
- ♥（講義2について）ニュージーランドの動画、すぐおもしろかったです。性的同意はセクシーだ、YES IS YES！CSEを東先生解説で聞ける、お得感たっぷりのお話でした。
- ♥（講義3について）自他の欲求・感情を混合すること、「あなたのため」ということの暴力性について改めて考えさせられました。職場でも共有したいと思いました。／「自分と状況をコントロールする力」について考えさせられました。／性暴力、境界線、同意等のお話、とてもよかったです。支援者でも、境界線についてなかなか理解が同じではないので、みんなで共有しようと思います。
- ♥（講義4について）いまいる支援の現場や自分自身を振り返る視点をたくさんいただいたという感じです。ぜひ、現場に持ち帰って、自分たちの支援を振り返ろうと思います。／子どものトライ＆エラーを受け入れるという点について、性に限らず臨床的にも母親としても理解できました。／正しい病は、よくしたいという気持ちから生まれていて、どのような現場でも起こりうるであろう。しかし、そのことを知り、みんなの価値観を分かち合えることが防止につながると思えた。／正しい病、治したい病、教えたい病になってないか自己問答しようと思います。いろんなメガネでみていることが気づきになりました。